

【施設状況】

グループ名称	もんぜんぷら座こども広場(じゃん・けん・ぽん)								
指定管理者名	特定非営利活動法人ながのこどもの城いきいきプロジェクト				法人番号	6100005002075			
所管課	主	117000	保育・幼稚園課	副					
構成施設	もんぜんぷら座こども広場(じゃん・けん・ぽん)								
施設分類	06	保健福祉2型		施設利用者圏域	01	地域施設	利用制適用区分	01	代行制
施設概要	床面積860㎡ 遊び場、活動室、相談室、会議室、お昼寝室、授乳室、おむつ替えコーナー、こどもトイレ、親子トイレ(車いす対応)、受付、事務室								
施設設置目的	乳児及び幼児とその親子の子育てに対する悩みや不安を解消し、もってそれらの者の福祉の増進を資するため、子育て支援の拠点施設として設置する。								
基本方針等	指定管理者の創意工夫に基づいた管理運営により、質の高いサービスを利用者に提供するとともに、地域に根差した施設となることを目指す。								
主な実施事業	①子育て中の親とこどもの交流に関する事業 ②子育てに関する相談 ③子育てグループ等の育成 ④子育てに関する情報提供 ⑤遊びに関する指導助言 ⑥子育て情報誌の発行 ⑦子育て講座イベントの開催 ⑧ホームスタート事業 ⑨利用者支援事業 ⑩その他子育て支援に関すること								

【項目評価基準表】

評価	評価基準
5 (優れている)	・協定、事業計画に基づく管理運営や事業の実施が期待以上で、指定管理者のノウハウや努力等によるところが特に大きい
4 (良い)	・協定、事業計画に基づく管理運営や事業の実施が期待以上
3 (普通)	・協定、事業計画が予定どおり実施された
2 (劣る)	・協定、事業計画の一部が予定どおり実施されない ・管理運営の一部において、市の指導が必要
1 (悪い)	・協定、事業計画が全て実施されない ・管理運営の全てにおいて、市の指導が必要 ・市の指導を受けてもなお、全く改善が図られない

【評価項目】

1 指定管理者の健全性

指定管理者名	特定非営利活動法人ながのこどもの城いきいきプロジェクト			指定回数	3 回	
指定期間	平成29年4月1日	～	令和4年3月31日	5年	管理運営開始日	平成18年4月1日
指定管理者の健全性	施設の設置目的や市が示した基本方針、また、自ら提案した内容に沿った管理運営であったか。また、団体の財務状況や組織体制は、管理運営実績のある他施設での管理運営状況も踏まえ、良好で、健全か。					評価
	特記事項 (問題等があった場合に、その内容等を記入)					

2 施設の有効活用

施設利用状況 (利用者数、件数、稼働率など)	利用区分等	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	対前年比	評価
	利用者数	人	47,193	46,813	45,519	36,601	80%	
	出張広場参加者	人		906	1,295	1,266	98%	
	新規登録乳幼児数	人	2,292	2,304	2,127	1,765	83%	
	専門家相談人数	人	505	552	481	663	138%	
	子育てコンシェルジュ相談数	件				908	#VALUE!	
	ホームスタート訪問家庭数	人	37	63	67	60	90%	
							#DIV/0!	
(特記事項) ゴールデンウィークが大型連休となり利用者が少なかったこと、新型コロナウイルス感染防止対策のため3月3日より末日まで休館となり、前年度より利用者数などが減少している。相談内容の多様化に対応して子育てコンシェルジュを配置し、各専門機関に直接つなげることができるようになったことで相談件数が増加し、利用者の利便性が向上した。								
事業実施内容	区分	協定内容・指定管理者提案		追加事業、未実施事業及び未実施の理由				
	市指定事業	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て中の親と子どもの交流に関する事業。 ・子育てに関する相談。・子育てグループ等の育成。 ・子育てに関する情報の提供。 ・あそびに関する指導及び助言。 ・子育て情報誌の発行。・利用者支援事業(子育てコンシェルジュ)の開始。 ・子育て講座、イベントの開催。 ・ホームスタート事業(訪問型子育て支援事業)。 ・その他子育て支援に関する業務。 						
	自主事業	<ul style="list-style-type: none"> ・講師料利用者負担による講座の開催。 親子ヨガ、プレママプレパパのためのペアレンティングセミナー、離乳食講習会、パパ講座。 ・地域と連携した広場の開催。 あそびましよう(東部保健センター 月2回) ゆりかごの会、子育てサロン、ピーカーボー、サンサン広場(いずれも権堂イーストプラザ) ・スタッフ研修 		<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年東日本台風災害支援事業。 長野市北部レクリエーションパーク避難所において子どもの居場所を開設し一時預かり・見守りを実施運営(10.16~11.30) 長野市古里児童センター・古里公民館「わくわく広場in古里、パバママサロン」開設・運営(12.1~2.23の間の土・日) ・コロナウィルス感染症防止対策。 「おはながわらった@バーチャル」を毎日フェイスブック、ブログで実施 				
サービス維持・向上の取組み(広報等)	<ul style="list-style-type: none"> ・月間予定表、ホームページ、Facebook、ブログで広場の様子やお知らせなどを掲載し、情報発信に努めた。 ・情報誌「じゃんけんぼん」を年6回各2,200部を発行。保護者、支援センター、保健センター、公民館などに広く配布した。 ・週刊長野に便り「子どもも親もいきいきと」子育て・子育て支援の情報を月1回掲載。 ・広場から遠い地域や多胎児等で来館しにくい保護者の要望に応え、出張広場を開催しサービスの向上に努めた。 							

3 利用者評価

利用者評価	区分	内容		評価
	利用者要望把握	(1) 利用者要望把握方法	利用者アンケート	
利用者からの評価・苦情等	(2) 調査、会議等の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者会議等…サークル活動責任者会議(R2. 2.13)。 ・講座等でアンケート…各講座終了時にアンケート調査、さらに一人ひとりから感想や要望等を聞き取り(ねんねの会、年齢別おしゃべり会、NP講座、ウェルカム交流会、転妻の会、アートプログラム、リフレッシュ講座、子育て講座 等)。 ・利用者の声コーナー(投書箱により利用者の声を把握)。 		
	(3) 調査、会議等の結果	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者アンケート結果は、広場内に掲示。利用者会議や講座アンケートの一部は、こども広場の広報誌に掲載。 ・利用者会議…それぞれのサークルや子育ての悩み・現状、広場への要望等を聞くことができ、広場の活動に生かしている。 ・講座等のアンケート…それぞれの講座やアンケートを通して子育ての様子が分かると共に、要望を今後の子育て講座や支援のニーズとして活動に反映させる。 		
	(1) 良好とする評価	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者会議…広場が、NP講座、おしゃべり会を開催し、サークル作り仲間づくりの支援をしてきていて有難い。また、子育てサークルが会議室を利用できることで、参加者同士の情報交換や息抜き場になっている。毎年駐車場料金が課題として挙がっていたが、今年より助成される時間が伸びたことで、講座終了後もゆっくり情報交換や相談ができると好評の声が多かった。 ・講座等…「年度当初、転動してきたばかりの利用者が多く、広場で情報収集やママ友ができることがうれしい。」「家でできない様なことが親子で体験できて楽しかった。」「子どもと二人で家から出るきっかけになった。」「同じような月齢のママ友ができ、悩みを共有できた。」等の声が多く、講座の内容・時期が適切であり、子育て当事者同士の育ち合いの場ともなり好評である。 		
(2) 苦情・改善等の要望事項	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者会議…「子育て講座は、現在もたくさんやっていただいているが、託児付き子育て講座や年齢別の親子で参加できるような講座があればもっと良い。」 ・利用者の声…「子どもがおもちゃをなめてしまうので、衛生面が心配。対応をお願いしたい。」「図書コーナーに絵本等をたくさん置いていただいておりますが、出し入れがしづらいので、もう少しゆとり入れてほしい。」 			
「対応措置」	<ul style="list-style-type: none"> ・講座終了後のアンケートからどのような講座の希望が多いか常に調査・検討し、よりニーズに合った講座を開催する。 ・おもちゃの消毒は、全体では終了後行い、開館中になめたおもちゃについては、受付に回収箱を設置し、入れていただくようにしている。来館者に回収箱を理解いただくように一層周知を図る。 ・絵本コーナーはたくさんさんの親子に利用され好評であるが、たくさんあれば良いというものでもなく、棚の使いやすさも大切であると再認識し、入れ方を工夫した。 ・利用者の投書については、一人ひとりに返答している。 			

事業収支 (単位:円)	指定管理者収支(令和元年度)				市の収支				評価
	年度計画額		収支実績額		令和元年度決算		平成30年度決算(前年度)		
	項目	金額	項目	金額	項目	金額	項目	金額	
収入	利用料金		利用料金		使用料		使用料		歳入
	指定管理料	23,782,000	指定管理料	23,782,000	雑(納付金)		雑(納付金)		
	委託料		委託料	703,910	行政財産目的外使用料		行政財産目的外使用料		
	販売収入等		販売収入等		貸付料		貸付料		
	その他収入	178,000	その他収入	534,512	その他		その他		
			広告料収入	75,882	国・県補助金	10,473,000	国・県補助金	8,513,000	
	計	23,960,000	計	25,096,304	計	10,473,000	計	8,513,000	
支出	人件費	16,961,000	人件費	17,788,002	指定管理料	23,782,000	指定管理料	18,452,000	歳出
	設備管理費	103,000	設備管理費	64,464	委託料		委託料		
	備品購入費	758,000	備品購入費	413,026	需用費		需用費		
	修繕費	120,000	修繕費	171,308	役務費	9,720	役務費		
	光熱水費		光熱水費		使用料・賃借料	365,116	使用料・賃借料		
	事業費	2,934,000	事業費	3,650,220	修繕費		修繕費		
	事務経費	1,611,000	事務経費	1,595,091	工事請負費		工事請負費		
	本社経費		本社経費		備品購入費		備品購入費		
	その他	1,473,000	その他	1,015,900	その他		その他		
	計	23,960,000	計	24,698,011	計	24,156,836	計	18,452,000	
自主事業	収入	150,000	収入	18,900					
	支出	150,000	支出	16,608					
	自主事業損益	0	自主事業損益	2,292					
損益		0		400,585	差引	-13,683,836		-9,939,000	
人件費比率【人件費(賃金等)／令和元年度指定管理者事業支出】(支出に占める人件費の割合)								72.0%	
本社経費が、計画額と実績額で異なる理由									

5 管理運営全般 ※すべて で、「3」、「4」「5」とする場合は、評価理由欄に理由を記載してください。

区分	確認内容	チェック欄	評価
職員配置	1 施設管理運営に必要な人員が、適正で有効に配置されているか 配置実績 (うち市内雇用職員数) 運営責任者1人(1)、副責任者2人(2)、チーフスタッフ7人(7)、スタッフ7人(6)、コンサルタント1人(1) 合計 18人(17人)	<input checked="" type="checkbox"/>	4
	2 専門性を備えた職員、有資格者が必要に応じて配置されているか		
	3 労働関係法令を遵守し、職員の適正な労働条件を確保しているか		
	4 職員の資質・能力向上を図り、施設を適切に運営するための取組みや研修がなされたか		
平等利用	1 特定の団体や個人に偏らない、公平・公正な、透明性の高い運営がなされたか	<input checked="" type="checkbox"/>	4
	2 使用許可、減免等の事務手続きが適切に行われたか		
経理	1 施設の管理運営に係る収支の内容や、指定管理料、利用料金等の取扱いは適切に行われたか	<input checked="" type="checkbox"/>	4
	2 収支内容等を記載した帳簿を整備しているか		
施設・備品の維持管理	1 必要とされている保守、点検、清掃、保安、警備等、必要な維持管理業務が確実に行われたか	<input checked="" type="checkbox"/>	4
	2 備品はⅠ種、Ⅱ種を明確にし、それぞれ台帳、目録等を整備の上、管理が適正に行われたか		
セルフモニタリング等	1 日常的、定期的に業務の点検、監視が行われたか	<input checked="" type="checkbox"/>	4
	2 事業計画・報告書、予算書・決算書や、施設の利用状況などの定期報告、点検・検査結果報告などが遅滞なく提出されたか		

区分	確認内容	チェック欄	評価	
危機管理体制	1 危機管理マニュアルなどが整備されているか	☑	3	
	2 危機管理マニュアルなどの内容が職員に周知されているか			
	3 常に、日常の事故防止などに注意を払っているか			
	個人情報保護 1 施設の利用者の個人情報を保護するための対策が適切であったか	☑		
	防犯、防災対策	1 防犯、防火などの対策、体制が適切であったか		☑
		2 防災訓練など、必要な訓練が実施されたか		
緊急時対応、体制	1 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか	☑		
	2 必要な保険に加入するなど、利用者などからの損害賠償請求への対応措置が講じられているか			

7 地域連携

地域連携	評価			
<p>地域の声を聞く体制や、協働で地域貢献ができる運営であったか。市内雇用や市内事業者から物品を購入する等、地域を活用した管理運営であったか。障害者就労施設等からの物品及び役務の調達に努めたか。</p>	5			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>協定内容・指定管理者提案</th> <th>追加された内容、未実施の内容及びその理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・地元商店街や地元NPO等の主催行事等への積極的参加(善光寺花回廊、権堂七夕まつり、ゆめ灯り絵展等、地域まるごとキャンパス等)。 ・地元事業者と協力して子育て講座の開催(散髪講座、リフレッシュ講座)。 ・シニア層との交流(折り紙教室、手話で歌おう、シニア大学への情報提供)。 ・教育機関との連携事業(信州大学工学部、長野県立大学、清泉女学院大学・短大、中学校、高等学校、長野看護専門学校)。 ・地元商店街からの物品購入。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・長野市北部スポーツ・レクリエーションパーク避難所開設3日後の10月16日から11月30日、古里児童センター12月1日から2月23日の土日、子どもの居場所を開設し、長野市避難所運営者、清泉女学院大学、地域のボランティア等と連携し運営した。延べ60日。 参加者数: 幼児365名、学童1,407名、中学生222名、保護者66名、ボランティア一般248名、学生85名、スタッフ135名。 </td> </tr> </tbody> </table>		協定内容・指定管理者提案	追加された内容、未実施の内容及びその理由	<ul style="list-style-type: none"> ・地元商店街や地元NPO等の主催行事等への積極的参加(善光寺花回廊、権堂七夕まつり、ゆめ灯り絵展等、地域まるごとキャンパス等)。 ・地元事業者と協力して子育て講座の開催(散髪講座、リフレッシュ講座)。 ・シニア層との交流(折り紙教室、手話で歌おう、シニア大学への情報提供)。 ・教育機関との連携事業(信州大学工学部、長野県立大学、清泉女学院大学・短大、中学校、高等学校、長野看護専門学校)。 ・地元商店街からの物品購入。
協定内容・指定管理者提案	追加された内容、未実施の内容及びその理由			
<ul style="list-style-type: none"> ・地元商店街や地元NPO等の主催行事等への積極的参加(善光寺花回廊、権堂七夕まつり、ゆめ灯り絵展等、地域まるごとキャンパス等)。 ・地元事業者と協力して子育て講座の開催(散髪講座、リフレッシュ講座)。 ・シニア層との交流(折り紙教室、手話で歌おう、シニア大学への情報提供)。 ・教育機関との連携事業(信州大学工学部、長野県立大学、清泉女学院大学・短大、中学校、高等学校、長野看護専門学校)。 ・地元商店街からの物品購入。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長野市北部スポーツ・レクリエーションパーク避難所開設3日後の10月16日から11月30日、古里児童センター12月1日から2月23日の土日、子どもの居場所を開設し、長野市避難所運営者、清泉女学院大学、地域のボランティア等と連携し運営した。延べ60日。 参加者数: 幼児365名、学童1,407名、中学生222名、保護者66名、ボランティア一般248名、学生85名、スタッフ135名。 			

【総合評価】

評価項目	評価	得点	総合評価
指定管理者の健全性	4	8	<p>総合評価</p> <p>指定管理者の健全性</p> <p>施設の有効活用</p> <p>利用者評価</p> <p>事業収支</p> <p>管理運営全般</p> <p>危機管理体制</p> <p>地域連携</p> <p>合計得点: 80</p> <p>----- 基準値</p>
施設の有効活用	5	20	
利用者評価	4	16	
事業収支	3	6	
管理運営全般	4	8	
危機管理体制	3	12	
地域連携	5	10	
評価理由	<p>・子育て支援施設の設置目的や運営方針を踏まえたうえで、教育機関との連携や被災児童支援を行い地域の子育て支援拠点として多角的な運営をしつつも、財務的にも健全な運営管理を行っていることを評価し、「指定管理者の健全性」を「4」とした。</p> <p>・新型コロナウイルス感染防止という不測の事態による休館中、FacebookなどWebメディアを活用し、工夫を凝らした積極的な子育ての情報発信を行ったことや、保健センターと連携しての出張広場の開催など、利用者が望む支援を継続して行っていることを評価し「施設の有効活用」を「5」とした。</p> <p>・専門性を備えた職員を十分に配置しており、子育てコンシェルジュを新たに配置し、事業が円滑に進められたことを評価し「管理運営全般」を「4」とした。</p> <p>・講座や他課との連携・受託事業が、利用者の要望とマッチしており好評を得ていること、改善要望に対しても利用者の立場に寄り添い、的確な対応をしていることを評価し「利用者評価」を「4」とした。</p> <p>・令和元年東日本台風災害の際、職員の専門性を生かし、避難所において被災児童への支援を行い、子どもの居場所を確保することで被災家屋の片づけ等を行える環境を提供したことを評価し「地域連携」を「5」とした。</p>		
取組み・改善案等 (施設所管課)	前年度からの課題	改善状況	改善案等(改善されていない場合)
	<ul style="list-style-type: none"> ・自家用車で来館する利用者に対する駐車料金の補助。 ・相談内容の複雑多様化する相談への支援体制の拡充。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成31年4月より指定駐車場であるTOiGO駐車場と鍋屋田駐車場の補助(料金1時間200円のうち100円を補助)対象となる時間を2時間から3時間に延長した。 ・子育てコンシェルジュの設置により相談体制が充実、関係機関との連携が図られ利用者目線の寄り添い型の支援が可能となった。 	
次年度の目標・取組み等 (施設所管課)	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てコンシェルジュによる相談体制や関係機関との更なる連携の向上。訪問型子育て支援やファミリー・サポートのほか、保健センターなどと連携して出張広場等の開催を継続するなど利用者が利用しやすい子育て支援を継続していく。 ・令和2年度も継続して、もんぜんがら座の耐震工事が行われる。引き続き利用者に注意喚起を行うとともに、もんぜんがら座事務局と連携して利用者が安心して利用できる施設運営を期待する。 		

指定管理者自己評価

(1) 今年度の取組みに対する評価

① サービス向上に向けての取組み

- ・令和元年東日本台風で被災した子ども達の預かり・見守り事業を法人と共同で北部スポーツ・レクリエーションパーク避難所と古里児童センター・古里公民館で、臨時保育所開設前・休園日を中心に、子ども達や被災家屋の片付け等に行く保護者に安心・安全な居場所を提供した。来館者に支援物資の寄付を呼びかけ、支援物資を被災者に届けた。
- ・訪問型子育て支援事業(ホームスタート)は、新型コロナウイルス感染防止のため休館中だった3月にも、要望のあった13家庭に28回訪問し支援を行った。また、中止となった休日マタニティセミナーの代替事業として、希望家族(7組14人)に助産師が沐浴体験等個別対応するなど、多機能を持つ施設として支援が出来た。
- ・新型コロナウイルス感染防止のため、3月3日より臨時休館となったが、自宅で自粛している親子向けに毎日Facebookで動画を配信、ブログで情報を流し、子育て世帯が孤独にならないように支援した。手遊びや体遊び等親子で実際に動画を見ながらできるメニューや、パネルシアターなど見て楽しめるものをスタッフが様々な工夫をし、リーチ数は3月1か月間で14,152件に達した。休館中も電話相談は継続し、ケースによっては来館してもらい個別対応で相談にあたった。
- ・子育てコンシェルジュが配置され、より身近な場所で様々な相談が可能となり、相談内容が複雑多様化した。また、子育てコンシェルジュ配置により各専門機関に直接つなげることができ、より一層利用者の利便性が図れるようになった。広場の相談総件数2,535件のうち、コンシェル対応件数908件と約35%にあがった。

② 業務の効率化に対する取組み

- ・常勤スタッフが少なく、パート職員が多いため意思疎通が難しい場面がある。全体ミーティングの開催はなかなか実施できないため、チーフ会議を定期的に実施し、各曜日のスタッフに情報が届くようにした。また、一斉メールを利用して情報共有のスピード化を図った。
- ・来館者への紙ベースの情報提供を極力削減した。チラシをA5判にし配布したところ、小さく持ち帰りやすいと好評。さらにWEBでの情報発信も積極的に行い、月間スケジュールにQRコードを付けるなど工夫した。
- ・「先生おしえて」等専門家による講座の講師を法人関係者に依頼し実施。また、子育て講座にはスタッフが有する資格、「わらべうたベビーマッサージ」指導者7名、JPIC読書アドバイザー2名、絵本セラピスト2名、公認コアキッズ体操普及員4名、NP認定ファシリテーター7名を活用し、謝金等経費の削減に努めた。また、講座はボランティアと連携し年間907人の協力があつた。
- ・内部的な印刷物には裏紙を使う、文房具品等を安価な業者から購入する等、また手作り遊具を作成する際も空き箱やあまり布などを利用し、日常的に経費削減を意識している。

③ その他

- ・こども広場の持つ特性を活用し「休日マタニティセミナー」「多胎児育児相談事業」等長野市との協働事業、「長野市キャリア教育推進事業赤ちゃんだっこ」「長野市転入者子育て交流会事業」等を受託し、広場利用者親子のみならず妊産婦家族、中学生、長野市転入者、多胎児の家族等地域住民への支援ができ、より有効な事業とすることが出来た。
- ・教育機関との連携で、事業を実施し、実習やインターンシップの場の提供と、参加者の社会参加や研究成果を広場運営に活用した。
長野市キャリア教育推進事業「赤ちゃんだっこ」：7学校21学級(松代中4学級、令和元年東日本台風被災のため中止)。参加親子115組。
長野県立大学・長野県短期大学金山ゼミ：「初めてママとねんねちゃんのおしゃべりカフェ」を共催。4回86人参加。
長野看護専門学校 臨地実習：母性看護実習生34人(各2日) 各日終了後スタッフ助産師とカンファレンス。
長野清泉女学院短期大学 二方ゼミ：乳幼児期の子どもの適切な遊具や遊びについて：遊びの時間で実践、終了後スタッフと意見交換。
長野清泉女学院大学看護学部との協働実施：「プレママのためのペアレントリングセミナー」。
- ・妊娠期から途切れのない支援を目指して、休日マタニティセミナー(長野市保健所との協働事業)、プレネイタルミーティング(講師：小児科医)、プレママ・プレパパのためのペアレントリングセミナー、ホームスタート産前産後支援、ねんねの会へ子どもの月齢等に合わせた事業展開を行った。

(2) 指定管理者業務実施上の課題

- ・令和元年東日本台風災害が秋に、新型コロナウイルス感染症が今年度の終盤で発生したが、国、県、市の対応を逐次情報収集し、また所管課と協議し適切に対応することができた。これからもこのような災害などが起こった場合を想定し、スタッフの行動マニュアルや危機管理マニュアル等への対策追加が喫緊の課題である。
- ・少子化や女性の就業が進む中、0歳児や1歳児の入園が多くなり、広場の利用者の減少につながっていると思われる。特に午後後半の利用減少が顕著になってきている。利用者の実態を適切に把握し、運営に生かしていきたい。
- ・利用者支援事業(子育てコンシェルジュ)が本年度より開始され、ある程度の成果が出ていると思われる。さらに周知を図り、訪問型子育て支援事業と共に、よりたくさんの方の市内の親子に利用してもらえるように広報をしたい。
- ・利用者のニーズに合ったサービスの提供をするために、施設の安全性を高め、安心して来館してもらえるように、日中のスタッフ配置を厚くしている。利用者に安心して遊んでもらえるように正規スタッフの配置を進めているが、開館日・勤務時間等で雇用に支障をきたしている。

(3) 総合評価

評価基準

【A】計画や目標を大きく上回る 【B】計画や目標を上回る 【C】計画や目標どおり
【D】計画や目標を下回る 【E】計画や目標を大きく下回る

指定管理者
自己総合評価

A

① 評価理由

- ・令和元年東日本台風災害時における臨時保育所の開設前・休園日の幼児の預かりや見守り支援、新型コロナウイルス感染拡大防止による休業時の子育て中の親子への支援等、緊急時に速やかに支援の提供ができた。
- ・拠点型こども広場事業、訪問型子育て支援事業、利用者支援事業、併設されている長野市ファミリー・サポート・センター事業等一場所に多機能を有し、それらを活用した支援を長野市保健所、中央児童相談所等専門機関や主任児童委員協議会等地域連携の中で行った。子育て中の市民からの問い合わせも多く、地域の子育て支援の中核となり喜ばれている。
- ・パパも一緒に参加できる子育て講座を、昨年に続き「ながのわくわくパパ講座」を地域の子育て中のパパを実行委員として6回実施し延べ84人参加。今年度、新たに「パパカママカアップ講座～赤ちゃんとお遊ぼう!!～」を2回開催し22組が参加するなど内容の充実を図った。
- ・利用者に転入者が多く「初めてのながのウェルカム交流会」長野市子育て支援課と連携して3回開催、186組が参加。広場独自で、長野市に転入して来た親子のおしゃべり会「転妻の会」を3回開催し、67組が参加。特に今年度は初回を5月に開催し、転入したばかりの利用者に大変好評だった。
- ・今年度は、新型コロナウイルス感染防止対策等で休館となり予定していたアンケート調査ができなかったが、常に利用者の要望や苦情等を真摯に受け止め自己評価し検討改善に努め、必要な支援・事業を地域や他機関と連携し展開した。

② 次年度以降の取組み

- ・利用者支援事業の充実
気軽に相談できる利点として広場に子育てコンシェルジュが配置され、その強みを更に発揮できるようにコンシェルジュの資質の向上を図り、より利用者の声にこたえられる人材づくりを行う。また、地域との連携の利点も生かし、地域資源の開発を図る。
- ・求められる広場づくり
少子化や女性の就業増加に伴う就園児の低年齢化で、広場を利用する親子が減ってきている中、選ばれる広場となるために常に利用者のニーズ把握に努める。
- ・パートナーとともに子育てを支援
地域の中で、子育てを手伝ってくれる身近な人がいない家庭が増えてきている。そのような中で、父親の役割が重要視されてきている。「ながのわくわくパパ講座」やペアレントリングセミナー等の充実を図り、パートナーとともに子育てを楽しめるよう支援する。